

FISHIN'GRAPH

フィッシン'グラフ～見て感じて楽しむ沖釣りライブ

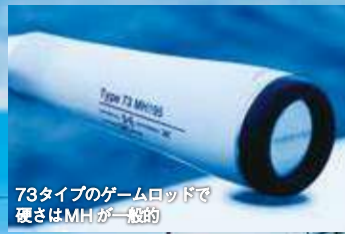
②0 ライトだけどジャンボな 三浦半島のアマダイ



相模湾～三浦半島ではオモリ40～60号を使う船宿がほとんど



仕掛けは2本バリ、エサはオキアミのみという、いさぎよさ



73タイプのゲームロッドで硬さはMHが一般的



ライトアマダイに欠かせない超小型電動リール

◎とみどころ じゅん シマノインストラクター、ティップエギング、メタルスッテゲーム、ライトヤリイカのほかタチウオなど、船のライトゲーム、「楽しむ釣り」の最先端を行く。



小網代出船では小網代沖～城ヶ島、剣崎沖方面を狙う

富所潤さんにとってアマダイは「難易度は低けれど難しい」釣りだと言う。タナはほぼ海底、仕掛けもエサ付けも簡潔で、初めての人が大型を釣ることがあるという点では難易度は低い。ならばベテランならもっと釣れるのかといえ、そうは行かない。仕掛け、誘い方、タナなどを熟考して状況を予測しても、答えが出ないことが多い。小網代沖の90メートルタチ。仕掛けの長さは2メートル。オキアミをてい

ねいに付けて海底へ下ろしたらオモリを1メートル上げて、仕掛けがなじむのを待って、ゆっくり誘い上げる。ライトゲームエクスチューンTYP E73MH195が60号オモリを持ち上げ、ゆっくりと立ち上がってゆく。三浦半島越しに吹き付ける北風と波に揺さぶられるものの、穂先は暴れることなく、しなやかに曲がった状態を保つ。ていねいに竿を下ろし、しばしアタリを待ち、フオースマスター200のスピ

ードクラッチを1回押して着底させ、もう一度押して竿を起こして底から離し、再び誘う。「いきなりきたかもしれませんよ」夜明け直後の1投目だけに半信半疑の富所さんだが、タッチドライブで巻き上げた直後と、海面下50メートルでの2度の強い引込みに確信へ変わった魚は、40センチ級のアマダイ。「ちよつと待ってください。これも、そこそこの大きさのアマダイですよ」直後にも魚信。小網代から城ヶ島、





▲(右) クラカケトラギスは天ぷらにして美味
 ▶(左) 人気の美味魚、ヒメコダイ。大きなヒメコダイのいる場所はアマダイも大きいとか
 ◀活発にエサを追うキダイ。仕掛けがフケ上がるとよく掛かる

小網代沖の水深90メートルで釣れた40センチ級。この後、沖場がりまでに10尾のアマダイが釣れた



サだけ取られている。「海が荒れているときは、ある程度巻き上げて追系のたわみや抵抗を取ることでハリ掛かりして引きが伝わる」ことがあります。今はほとんど、フォースマスター200のタッチドライブで巻き合わせをしています」

その後も30センチ級を含むアマダイを追加する富所さん。この日は大船長の出口訓さんと2人での釣りだったため、10尾で早揚がりとした。この日の富所さんにとって、アマダイは「難易度は低いが難しい」魚ではなかったはずだ。

剣崎沖にかけては大型のアマダイが釣れることで知られるが、いきなりの連発に驚かないわけにはいかない。

このまま大きなアマダイが釣れ続いたら大変だ。そう思っていると、徐々にゲストの活性も上がってきた。

タナが低めるときにはクラカケトラギスが、誘って仕掛けが浮くとキダイが掛かっては穂先を震わせる。それでもアマダイが食うと、他魚とは異なる明確で力強い魚信を送ってくる。富所さんは底と宙の間、1メートル



竿を手に持って誘い、穂先を監視。ククンと動いた瞬間にときめく



▲大物狙いの小網代出船、いきなり40センチ級が連続で釣れる

▶誘いが決め手となることも多いアマダイ釣りでは疲労を軽減するXシートエクストリームガングリップが強い味方になる



▲ケーブルをハンドル側に設置、手で包むようにパーミングできるSコンパクトボディは手巻きリール感覚での操作が可能



▲ディスプレイには水深、巻き上げ速度のほか、探見曳船搭載であれば水深と海底の変化、アキュファイッシュ対応の観測搭載船では魚群水深が表示される

【フォースマスター200】
 ◎水深80～100メートルを狙うアマダイ釣りでは、エサの確着と手返しとともに手持ちでの誘い、操作性も重視される。フォースマスター200はアマダイ釣りに最適といえるコンパクト電動リールだ。
 ◎SPEC ギア比=8.2 最大ドラグ力=5.0kg、自重=385g、糸巻重PE(タナトル) =0.8号-270m、1号-220m、1.5号-150m、最大巻上長=66cm/ハンドル1回転、シマノ巻上力=27kg、最大巻上速度195m/分



▲素早く、頻繁に底を取り直すアマダイ釣りではワンタッチでクラッチのオン、オフが可能なスピードクラッチが活躍する



▲ワンタッチで瞬時に理想の巻き上げ速度へ到達するタッチドライブ。アマダイ釣りでの中間速は20がおすすめ

ルのタナを攻めてアマダイを追加する。「波で船が上下するので、オモリを1メートル離れたあとは、ほぼステイさせて待つていきます。誘いは船の揺れで、それ以上の動きを加えるとキダイが食うか、アタリが出なくなりません」

こんなとき、竿には操作性と同時に安定性が求められる。富所さんが愛用するライトゲームエクステンション73MH195は絶妙な調子といえる。そして次第に風が強まり潮も複雑になると、今度はアタリの出方が変わっ

てきた。「先ほどまでアマダイと他魚ではアタリの強さが違いましたが、今はトラギスとアマダイがほぼ同じアタリで釣れます。これはトラギスが引く、アマダイが引かない、ではなくて、潮や船の動き、仕掛けの状態が原因かと思えます」

つまりトラギスとおぼしきアタリでもしっかりと聞き上げ、巻き合わせると、アマダイらしい力強い引込みが訪れる。他魚と違って合わせないでいると、エ



オモリ20～100号を使う釣りを1本でこなすバランスと操作性、優れた感度を持つ



【ライトゲームエクステンションTYPE73MH195】
 ◎細かい魚信を目と手、穂先とカーボンノックグリップで逃すことなく伝え、誘い動作でもネジれないブランクスと一日手持ちでも疲れにくいXシートエクストリームガングリップの搭載により、感度、操作性、軽さを高次元で備えたライトゲームロッド。73MHは汎用性の高い定番の1本。
 ◎SPEC 全長1.95m、2本巻、仕舞寸法129.9cm、自重128g、オモリ負荷20～100号、カーボン含有率98.7%